

船舶事故調査報告書

令和3年11月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和3年6月13日 14時30分ごろ
発生場所	沖縄県石垣市登野城漁港付近 石垣港サザンゲートブリッジ橋梁灯（R1灯）から真方位111° 160m付近 （概位 北緯24°19.9′ 東経124°09.7′）
事故の概要	作業船ふようは、航行中、リーフに乗り揚げた。
事故調査の経過	令和3年6月15日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	作業船 ふよう、3.1トン
船舶番号、船舶所有者等	293-37642 沖縄、有限会社芙蓉開発
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	キールに擦過傷
気象・海象	気象：天気 雨、風向 南南西、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗り組み、登野城漁港付近の防波堤延長工事の下見をする目的で、石垣港登野城第2防波堤灯台に向け、約3ノットの対地速力で航行中、リーフに乗り揚げた。</p> <p>船長は、船尾部の操縦台で立って操縦し、船体中央部キャビンに荷物を置き、船首部には乗組員2人が立ち、前方が見えにくい状態ではあったが、目視でリーフの有無を確認していたので問題なく航行していると思っていた。</p> <p>船長は、リーフが航路筋に延びていることを知らず、また、事前に登野城漁港付近のリーフの状況を把握していなかった。</p> <p>本船は、喫水が船首約65cm、船尾約1m30cmであり、満潮を待って自力離礁した。</p>
分析	本船は、リーフが存在する海域を航行中、船長が、前方が見えにくい状態でリーフが航路筋に延びていることを知らないまま航行を続けたことから、目視でリーフの有無を確認していたものの、リーフに乗り揚げたものと推定される。
原因	本事故は、本船がリーフが存在する海域を航行中、船長が、前方が見えにくい状態でリーフが航路筋に延びていることを知らないまま航行を続けたため、目視でリーフの有無を確認していたものの、リーフに乗り揚げたものと推定される。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 船長は、航行する海域のリーフの状況を事前に確認し、前方の見通しを良くしてリーフに近寄らないこと。</li></ul>
--	--